

erudio 3



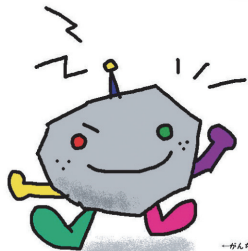
全学共通教育授業公開での一コマ



優秀授業表彰式での玉センター長



新任教員の江本理恵



夢、かなえよう！
いはとーぶの学び舎で

目 次

建学構想に立ち返って	2
関連委員会・構成員名簿	4
新兼務 & 新任教員より一言	7
全学共通教育の概要	9
大学教育センター活動報告	10



平成 16 年度後期 授業改善アンケートによる
全学共通教育科目優秀授業表彰式
平成 17 年 7 月 19 日

建学構想に立ち返って

産みの苦しみ

岩手大学の発足は、波乱に富んでいました。盛岡農林専門学校と東北大学との合併案が先行し、文部省議を通過します。その後に、現在の総合大学構想が対置され、教職員・学生はもちろん、盛岡市民、岩手県民を巻き込んで議論が交わされたのです。その結果、岩手総合大学構想が県民多数の支持をとりつけました。教員組合もまた総合大学構想を支持し、県民に対して総合大学創設の意義について宣伝したのです。

文部省も「民意」を重視し、農専に総合大学への参加を要請し、農専教員会議も参加を承認して昭和24年の岩手大学の発足となりました。その時、東北大との合併案を支持してきた農専学生自治会は、声明を発表しています。「我々学生は民主政治における少数者として決定には服従する。しかも単に服従するだけでなく、これを最もよく運営するために全力を尽くすものである。」と。

建学の構想

鈴木茂雄初代学長候補が新聞に公表した新大学の構想と抱負は、次のようなものです。「岩手大学は各専門学校を統合して出来た総合大学であるから各学部が連絡をとり有機的に結合してやっていくようにしたい。現在までは専門学校として各専門部門の研究に重点を置いて来たが今後は新制大学の趣旨に基き社会人としての教養ということを第一義的に考え個性の育成かん養に力を注ぎたい。また新制大学が各県に一校設置されたということは教育に各県の特徴を生かすことが主眼であり、岩手ではたとえば農学部は東北農事試験場と緊密な連携をとり高冷地農業の研究をするとか、工学部では埋もれた岩手の未利用資源の開発にあたるとかいうように岩手の大学という特徴を生かしたい。さらに近



大学教育センター長
(学務担当理事・副学長)

玉 真之介

い将来早急に農学部内に水産学科を設置することと、および岩手大学には文科的部面が欠けているから、学芸学部の充実と共に文科的な学部の新設をはかることも考えている。」

教養教育の問い直し

私は、この建学構想に今一度立ち返って、教養教育の意味を問い直し学士課程教育を再構築する必要があると考えています。その土台の上に、大学院における専門教育の充実が図られるべきだと考えています。

法人化をめぐる議論の中では、ともすれば大学の前身である専門学校、師範学校の伝統が強調され、教養教育よりも専門職業人養成に大学教育の中心を移すような議論もありました。全学共通教育「改革骨子案」が全教員担当体制を強く打ち出した理由も、「教養教育に対する軽視の風潮」に危機感を抱いたためと思われます。

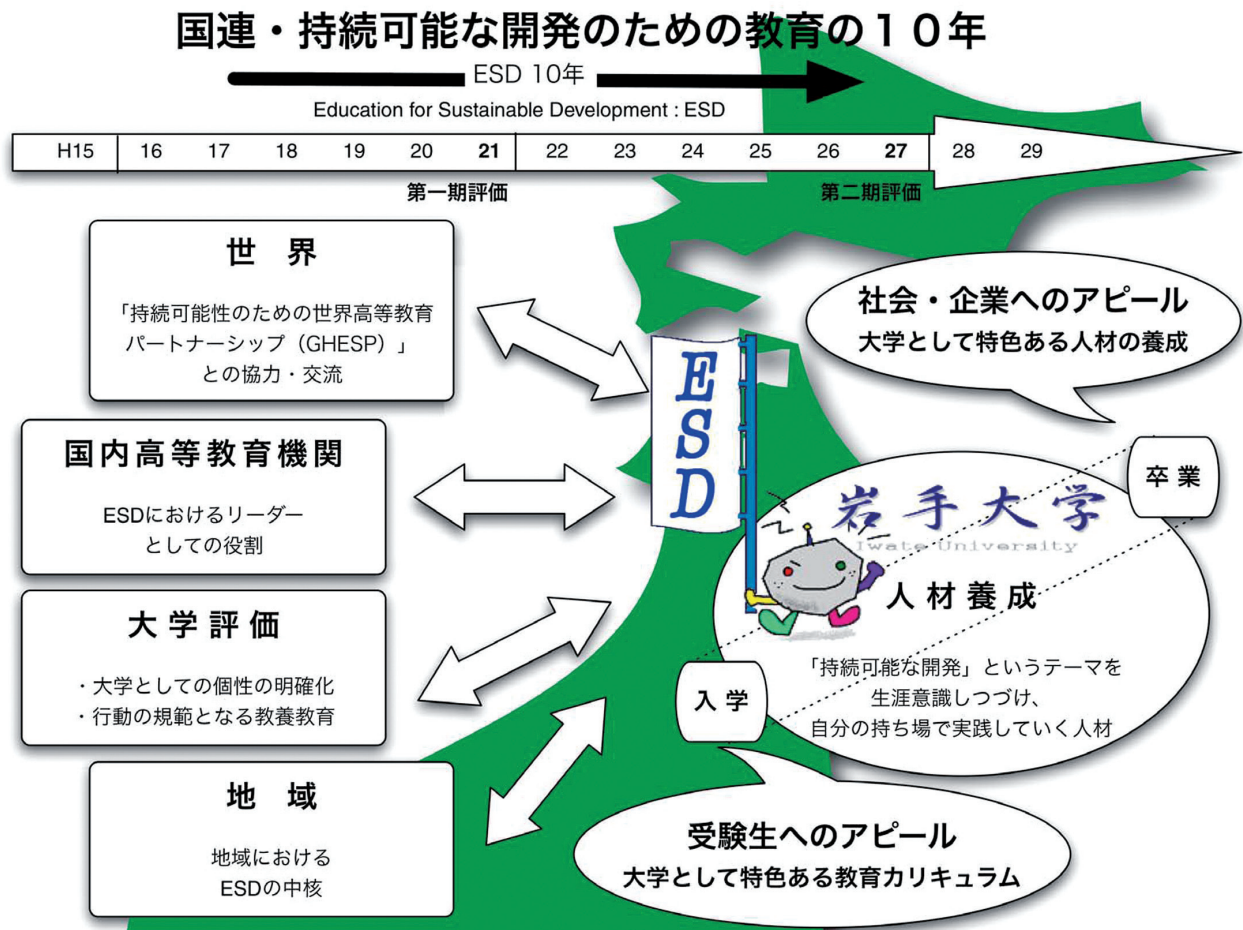
しかし、それは上着を無理に脱がそうとする「北風」効果になったかもしれません。問題は、やはり教養教育の中身です。多くの教員の使命感と熱意に支えられた全学共通教育をどのように作り出していくか、そこに岩手大学の未来が懸かっています。

「持続可能な開発のための教育」(ESD)

戦後の教養教育は、旧制高校のエリート教育である「教養主義」を引き継いで来ました。しかし、大学が大衆化したいま、改めて教養教育の中身が問われています。岩手大学は、旧制高校を前身とせず、実学の伝統に立っています。そのために、教養教育といえば実学の対極にある「教養主義」が対置されがちでした。しかし、実学の伝統を踏まえ、現実社会とのつながりを意識し、行動の規範となるような教養教育を岩手大学の特色としてもよいのではないのでしょうか。

学務担当理事室は、そのような考えから、国連が提唱する「持続可能な開発のための教育」(ESD)を全学共通教育の旗印とする提案を行いました。それは現代を生きる社会人に必要不可欠な教養であるだけでなく、行動に結びついて

ゆく教育にもなると考えました。しかも、これは新たな科目の開設よりも、既存の科目を「持続可能な開発」の価値観でつないでいくところに特徴があります。「イーハトーブの学び舎」で「持続可能な開発」というテーマを身につけ、生涯にわたって自分の持ち場で実践していくような人材を岩手大学として育てたい。大学教育センター長として、そのような思いを抱いています。



大学教育センター委員会・構成員名簿

平成 17 年 4 月現在

大学教育センター関連会議

委員会の名称	備考（開催時期・構成員等）
運営委員会	必要に応じ随時開催・委員会名簿参照
全学共通教育企画・実施部門会議 (第 1 部門会議)	必要に応じ随時開催・委員会名簿参照
教育評価・改善部門会議 (第 2 部門会議)	必要に応じ随時開催・委員会名簿参照
専門教育関係連絡調整部門会議 (第 3 部門会議)	必要に応じ随時開催・委員会名簿参照
センター会議	定例：毎週火曜日 9 時～ センター長・副センター長・センター専任教員
ミーティング	定例：毎週 金曜日 10 時 30 分～ 副センター長・センター専任教員
第 1 部門兼務教員会議	必要に応じ随時開催 第 1 部門部門長・第 1 部門兼務教員・専任教員

大学教育センタースタッフ

	氏 名	所 属
センター長	玉 真之介	理事（学務担当）
副センター長	岡田 仁	人文社会科学部
センター専任教員	江本 理恵	大学教育センター
センター専任教員（併）	後藤 尚人	人文社会科学部
センター専任教員（併）	中村 一基	教 育 学 部
センター専任教員（併）	石川 明彦	人文社会科学部

大学教育センター運営委員会

	氏 名	所 属
センター長〔委員長〕	玉 真之介	大学教育センター
副センター長〔副委員長〕	岡田 仁	大学教育センター
部門長	岡田 仁	全学共通教育企画・実施部門
部門長	中村 一基	教育評価・改善部門
センター専任教員	江本 理恵	大学教育センター
センター専任教員（併）	後藤 尚人	大学教育センター
副学部長	高塚 龍之	人文社会科学部
	村上 祐	教 育 学 部
	長谷川 正之	工 学 部
	木村 伸男	農 学 部
教務関係委員長	吉村 泰樹	人文社会科学部
	長澤 由喜子	教 育 学 部
	渡邊 孝志	工 学 部
	谷口 和之	農 学 部
全学共通教育企画・実施部門選出教員	小林 睦	
教育評価・改善部門選出教員	高橋 壽太郎	
学 務 部 長	畑中 文穂	
（オブザーバー）	石川 明彦	大学教育センター

全学共通教育企画・実施部門会議

	氏 名	所 属
部門長〔委員長〕	岡田 仁	全学共通教育企画・実施部門
専任教員（併）〔副委員長〕	後藤 尚人	全学共通教育企画・実施部門
分科会代表・兼務教員	小林 睦	人間と文化分科会
	横山 英信	人間と社会分科会
	北爪 英一	人間と自然分科会
	山口 春樹	総合科目分科会
	吉川 信幸	環境教育科目分科会
	齋藤 博次	外国語科目分科会
	黒川 國児	健康・スポーツ科目分科会
	西山 清	情報科目分科会
各学部教務委員選出教員	齋藤 博次	人文社会科学部
	押切 源一	教育学部
	小川 智	工学部
	古賀 潔	農学部
（オブザーバー）	江本 理恵	大学教育センター
	中村 一基	大学教育センター
	石川 明彦	大学教育センター

教育評価・改善部門会議

	氏 名	所 属
部門長〔委員長〕	中村 一基	教育評価・改善部門
部門長	岡田 仁	全学共通教育企画・実施部門
専任教員〔副委員長〕	江本 理恵	教育評価・改善部門
専任教員（併）	石川 明彦	教育評価・改善部門
各学部選出兼務教員	砂山 稔	人文社会科学部
	菊地 良夫	人文社会科学部
	宇佐美 公生	教育学部
	上演 龍也	教育学部
	野村 直之	工学部
	西谷 泰昭	工学部
	高橋 壽太郎	農学部
	塚本 知玄	農学部
（オブザーバー）	後藤 尚人	大学教育センター

専門教育関係連絡調整部門会議

	氏 名	所 属
センター長〔委員長〕	玉 真之介	大学教育センター
部門長〔副委員長〕	岡田 仁	全学共通教育企画・実施部門
専任教員（併）	後藤 尚人	全学共通教育企画・実施部門
各学部教務委員会選出・兼務教員	吉村 泰樹	人文社会科学部
	押切 源一	教育学部
	渡邊 孝志	工学部
	黒田 榮喜	農学部
（オブザーバー）	江本 理恵	大学教育センター
	中村 一基	大学教育センター
	石川 明彦	大学教育センター

ごあいさつ

今年度から全学共通教育企画・実施部門長と副センター長を務めることになりました。前任者の山崎達彦先生はどなたもご存知の通り本学の全学共通教育の改善に大変な貢献をされてきました。しかし、この3月に定年で退職され、さらにセンター長の進藤浩一副学長も6月に任期満了で退職されました。これは私たちにとっては大変な痛手なのですが、お二人が創設に尽力された大学教育センターが所期の目的を果たせるよう関係教職員は最善の努力をするつもりです。組織は変化を避けられませんが、その組織に結集した思いと努力は継承されていくべきものだと思います。少なくとも、それをしっかり受け止めて足がかりにしない限り次のステップを踏むことは不可能でしょう。

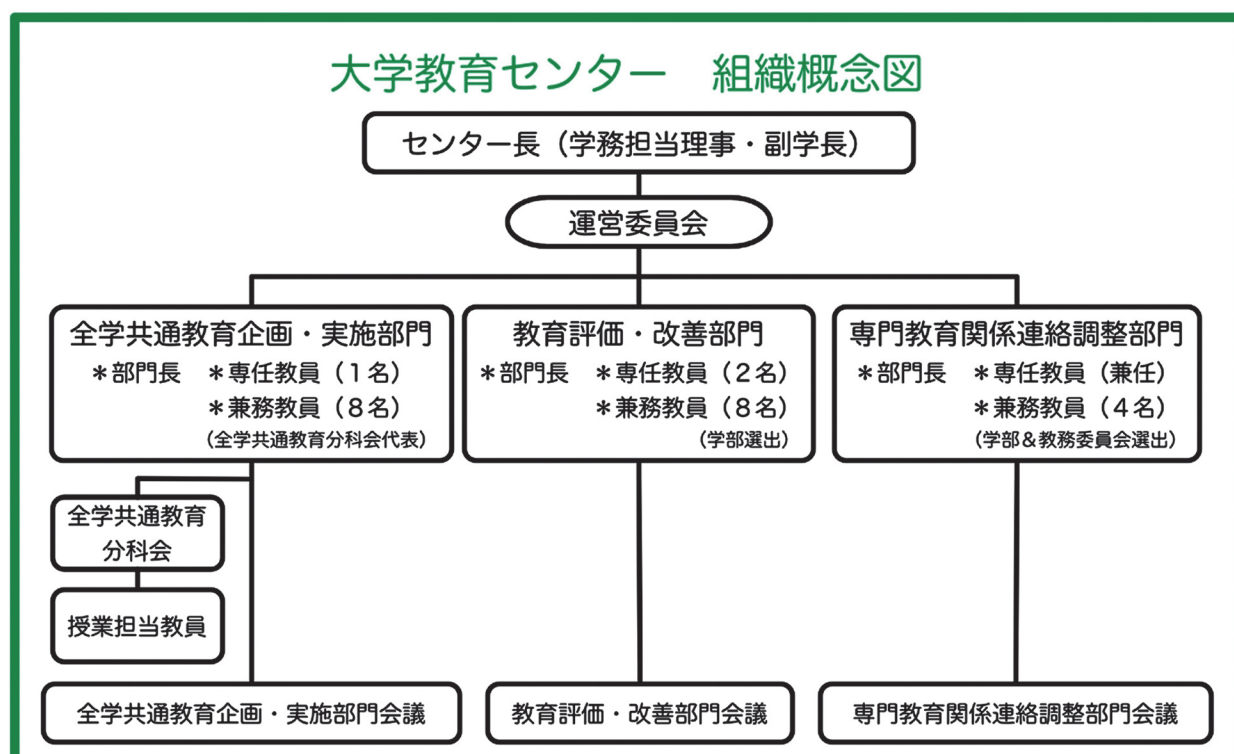
大学教育センターは昨年創設されたばかりですが、学内の教育研究支援施設としての任務は大変重いものがあります。事の性質上誰もが喜ぶわけではない改革案を提案したり、授業改善についてあれこれ要請したりするわけですから、創設時からずっと大学教育センターに携わってきた兼務教員の努力は並大抵のものではなかったと想像できます。また、各学部の代表を交えた大学教育センター運営委員会の議論も大変活発です。当然ながら私たちはみん



大学教育センター 副センター長
全学共通教育企画・実施部門 部門長
岡田 仁

な教育について一言ありますから、委員会でもスタッフ会議でも意見の一致の道のりは長く険しいものがあります。コンセンサスを形成するためには議論に注いだのと同じ量の情熱を傾ける必要があります。改革にせよ改善にせよ円滑な実施を可能にするのは理解に基づいた合意ですから、その形成は大学教育センターにとっても最重要課題の一つだと考えています。

さて、6月から玉副学長をセンター長に迎え全学的にも大学教育センターに新機軸が期待されています。また、10月1日からはさらに2名の方が専任教員として就任することになりました。大学教育センターは組織としても一層充実します。現在のスタッフは次の世代にしっかりと受け止めてもらえるような結果を残せるよう最善を尽くします。



新兼務&新任教員より一言



全学共通教育企画・実施部門
健康・スポーツ科目分科会代表
黒川 国児

学生のアンケート結果から、「健康・スポーツ科目」の満足度が高い理由として「運動不足の解消」とか「仲間と接する機会」等が挙げられている。しかし、学生の満足度の中身とこの科目の教育目標が合致したものになっていないという指摘があり、「健康・スポーツ科目」における現行の問題点として、これから教育目標が達成できるような授業内容の改善に取り組んでいく必要がある。満足度の高い理由にはそれなりの意義があり、これらを大事にしながら「自主的、主体的な実践力の育成」とか「科学的方法論の理解」とか「スポーツの社会的、文化的価値の理解」に結びつくよう、授業内容の創意工夫に取り組んで行きたい。生涯にわたり心身の健康の保持増進のために、手軽にスポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現に備えて、その素養を享受する機会として「健康・スポーツ科目」が位置づけられるよう努力していきたい。



教育評価・改善部門
人文社会科学部選出
砂山 稔

教育評価・改善部門の兼任教員に就任した砂山です。4月から人文社会科学部の総合的FD委員会の副委員長になったため大学教育センターの仕事も兼ねることになりました。専攻は中国思想史・中国文学。大学の教育・研究の全体像は、博士課程の教育も担当しないと見えてこないというのが持論です。従って、文系の博士課程の創設を目指すとともに、先の観点から全学共通教育・学士課程の専門教育、大学院修士課程の研究・教育について考えて行く心算です。現在、日本学術会議の東北地区会議の委員をしておりますが、学術会議発行の『学術の動向』の最新(7月)号では、「今、教養教育を考える」が特集されており、日本の学術と大学の全学共通教育との関わりが改めて注

目されています。当面は人文社会科学部の総合的教育・研究の発展と全学共通教育の改善に関して検討を深め、また、学士課程の専門教育の教育評価の問題等について発言して行く予定です。



専門教育関係連絡調整部門
人文社会科学部教務委員会選出
吉村 泰樹

平成17年4月から専門教育関係連絡調整部門教員を兼務することになりました。専任教員定員が必ずしも十分とは言えない現状に加えて、非常勤講師予算の削減という要請を考えると、他学部で開講されている講義のなかで可能なものを積極的に利用することを検討する必要があるのではと考えています。特に、人文社会科学部、工学部、および農学部の教員免許取得に必要な教職に関する科目について、できるだけ早く検討する必要があると考えています。

専門教育は各学部に閉じるかたちで実施されていますが、可能なところから学部間の相互乗り入れをすすめていくことで、教員の意識も「学部の教員」から「岩手大学の教員」に広げることができるのではと考えています。



新兼務&新任教員より一言



専門教育関係連絡調整部門
教育学部教務委員会選出
押切 源一

「大学教育センター」といっても、2年に1コマ程度受け持つ「共通教育」以外に、縁もゆかりもない所だと思っていましたが、いつの間にか「専門教育関係連絡調整部門会議」の教育学部教務委員会選出委員になっていた…というのが実情で、正直なところ、「抱負」なるものまでまだ意識がいついていません。ただ、先日の会議で感じた「単位取得に関する学部間の敷居の高さの解消」、「予算削減による非常勤講師削減の問題点」や「半期22単位キャップ制と卒業必修免許取得のための必修単位とのバランス」など、今後学部を超えた議論を必要とするものは、単に「共通教育」に限らず沢山ありそうですので、視点を「共通教育＋教育学部」から「全学」に変えて、センターの活動に少しでも協力できたらと思っています。



専門教育関係連絡調整部門
農学部教務委員会選出
黒田 榮喜

大学の独立行政法人化も2年目に入り、大学運営のみならず、全学的な教育体制の整備に関する取り組みも大きく変わりつつあることを実感しています。その中であって、全学共通教育科目と専門基礎科目あるいは専門科目の位置づけを見直し、岩手大学における教育サービスの質の向上を目指した大学教育センターの取り組みには、大いに期待しています。学生自らが主体的に学ぶことができるシステムの構築のためには、受け手である学生の要望を幅広く取り入れる努力はもとより、優良事例を参考に現行システムの問題点を洗い出し改善を計る不断の努力が不可欠とは思いますが、しかしながら、評価のための改革に迫られるのであれば、求められている教育サービスの質的向上にはつながらないことが懸念されますので、大学教育センターには、多くの制約に屈することなく岩手大学としての教育システム構築にリーダーシップを発揮して欲しいと願っています。



教育評価・改善部門
専任教員
江本 理恵

今年4月に大学教育センターの専任教員として就任しました。専門は教育工学で、以前は東京工業大学社会理工学研究科に在籍し、高等学校の教科「情報」を題材とした教材開発や教育評価、特に「見方・考え方」を育成する教材及びその評価方法についての研究活動に取り組んできました。これまで民間企業での勤務経験および高校や大学における非常勤講師の経験はありますが、大学の専任教員となるのは今回が初めてです。大学の運営や仕組み、教員の置かれている状況や負担など、すべてが新鮮で驚きの毎日です。

教育評価・改善部門というと、大学の先生方の教育活動を評価し、改善せよ、という命令を出す部門だと思われがちです。しかし、私は、この部門は「教員の教育活動の支援、及び、学生の学習活動の支援」のための部門だと認識しています。先生方が学生だった頃に比べると、今の学生は基礎学力にしても学習意欲にしても多様な状況にあります。そのため、先生方も学生の指導をどのように行えばよいのか、常に試行錯誤されているのではないかと思います。この部門では、先生方の教育活動上の悩みを共有し、少しでも解決に向かってお手伝いすることができれば、と考えています。また、大学におけるすべての授業は「学生を育てるために」存在している、ということを確認し、「成績をつけるための教育評価」ではなく「学生をのばすための教育評価（形成的評価）」を教育の中に取り入れていく活動にも取り組みたいと考えています。

最後に、自分が大学教員の立場になって、今まで指導教員の先生をはじめとする先生方にどれだけ大切に育ててもらったのかを強く実感するようになりました。「子を持って知る親の恩」。今後は、学生に対して恩返しを行いたいと思います。至らぬ点も多いかと思いますが、よろしくお願いいたします。

岩手大学全学共通教育の概要

1. 大学教育の基本

大学教育は、「4（6）年一貫教育」という観点から、教養教育と専門教育との相互連携によって営まれることになっています。

本学のカリキュラムも、「教育課程の編成に当たっては、大学は、学部等の専攻に係わる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。」と規定されている大学設置基準第19条第2項にもとづいて編成されています。

2. 全学共通教育として実施される本学の教養教育

本学の教養教育は、全学共通の関心・責任・協力のもとに、全学部の教員による全学担当体制を組織して、「全学共通教育」として実施されています。

3. 本学の教養教育の理念

本学の教養教育は、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことを理念として実施されています。

4. 全学共通教育科目の二元的な構成とそれぞれの共通目標

本学の全学共通教育科目は、「教養科目」と「共通基礎科目」によって二元的に構成されています。

（1）教養科目の教育目標

教養科目の教育目標は、「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という教養教育の理念にもとづき、特に「幅広い教養」、「深い教養」及び「総合的な判断力」という、3項目に則して設定されています。

- ① 学生がさまざまな学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を広く生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことへの教育的支援
- ② 学生があらゆる分野の日常生活の営みの基礎になっている各種の常識・通念を掘り下げて問い直すことのできるほどのという意味での、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、自然との関係においても人間との関係においても創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことへの教育的支援
- ③ 学生が多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的な判断力を自ら培うことへの教育的支援

（2）共通基礎科目の教育目標

共通基礎科目の教育目標は、学生が在学中に教養科目と専門教育科目の学業を進めるうえで、また卒業後の社会生活を進めるうえで、共通に必要な基本的技能やその基礎となる知識を習得させること、として設定されています。

5. 教養科目および共通基礎科目の内部区分

（1）教養科目の区分

教養科目は、主題別に「人間と文化」、「人間と社会」、「人間と自然」、「総合科目」及び「環境教育科目」の5つに区分されています。教養科目として学ぶ授業科目は、これらの区分に沿って選択することになります。

（2）共通基礎科目の区分

共通基礎科目は、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」および「情報科目」に区分されています。

大学教育センター活動報告

前号 (erudio 2) には平成 17 年 1 月までの活動日誌を掲載しました。本号では平成 17 年 2 月から 8 月までの主な活動日誌を掲載し、活動状況について報告します。

1. 大学教育センターでは全学共通教育の改革を最重要課題として取り組んでいます。昨年の「全学共通教育の更なる発展へ向けて：改革骨子案」提案以来様々なご意見・ご批判を頂き現在は修正案(骨子案ヴァージョン 3)に基づいて全学で検討して頂いています。当初は平成 18 年度実施に向けて大学教育センター運営委員会で鋭意検討を進めてきましたが、一部を除き 18 年度実施は見送られることになりました。しかし、19 年度実施にしてもそれほど時間的余裕があるわけではないので、新分科会の提案など、可能なところから具体案の検討を進めています。
2. 大学教育センターの最大級の事業として「全学統一拡張 Web シラバス」の構築があります。これは画期的な学習及び授業支援システムとなるものですが、それだけに実用化に向けてはいくつかの課題もあるので、学生、教員から意見を聞きながらじっくり取り組むつもりです。みんなに喜ばれるシステムの完成を目指しますので、ぜひ注目して下さい。
3. 4 月から新任教員江本理恵先生が着任しました。現在のところ大学教育センター唯一の専任教員として、教育評価・改善部門を中心に全ての分野で既になくってはならない存在になっています。また、6 月からは進藤浩一センター長の後任として玉真之介副学長がセンター長に就任し、大学教育センターの活動にも新たな展開が見え始めました。
4. 玉センター長から、本学が「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年」に積極的に関わろうとする方針が打ち出されたので、現在継続審議中の全学共通教育改革案にもその趣旨を盛り込めるよう検討を加えています。
5. 本学のカリキュラムの国際化については、中期目標・中期計画でも言及しており、その実施のために、国際交流センターと合同ワーキンググループを立ち上げて具体案の検討を行っています。
6. 各学部との連携をより密接にするために、従来開催することの少なかった「専門教育関係連絡調整部門会議」を開催し、教養教育と専門教育の調和のほか、成績評価のあり方等、本学の教育全般に関わる事項の検討を始めました。
7. 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代 GP)に本学が申請した「各学部の特性を生かした全学的知的財産教育」が採択されましたが、大学教育センターも申請時から関わってきたので、関係者とともに喜んでいます。(岡田 仁)

大学教育センター活動日誌（主要行事のみ掲載）

2005年2月～8月

日 程	活 動 内 容	日 程	活 動 内 容
2月14日	第5回 教育評価・改善部門会議 (第2部門会議)	6月2日	第3回 運営委員会
23日	第7回 全学共通教育企画・実施部門 会議(第1部門会議)	6日	センター長交代(進藤→玉)
23日	ワンポイント学習会	6日	全学共通教育授業公開
24日	全学共通教育企画・実施部門 (第1部門) 兼務教員会議	～9日	
3月1日	第6回 運営委員会	9日	第3回 第2部門会議
4日	第1部門兼務教員会議	11日	大学教育学会 第27回大会
5日	第10回 FDフォーラム「評価され ～6日 る大学教育」 同志社大学(中村)	～12日	京都大学(後藤、江本)
7日	第8回 第1部門会議	15日	教員選考委員会(岡田他)
10日	現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP)説明会 横浜(後藤他)	15日	第1部門兼務教員会議
14日	改革骨子案 農学部説明会	23日	第1回 第3部門会議
14日	改革骨子案 工学部説明会	24日	教員選考委員会(岡田他)
15日	改革骨子案 教育学部説明会	29日	第1部門兼務教員会議
15日	改革骨子案 人文社会科学部説明会		
16日	東京農工大学 大学教育センター視察 (石川)	7月4日	第4回 第2部門会議
18日	第1部門兼務教員会議	7日	第1部門兼務教員会議
21日	第11回 大学教育フォーラム	8日	大学教育センター講演会「国連・持続 可能な開発のための教育の10年」 (ESD-J代表 阿部 治 立教大学教授)
～23日	京都大学(石川)	11日	前期授業アンケート開始
22日	第7回 運営委員会	13日	第4回 運営委員会
4月1日	副センター長交代(山崎→岡田)	14日	教員選考委員会(岡田他)
1日	専任教員着任(江本)	15日	第1部門兼務教員会議
8日	各学部 新入生ガイダンス	15日	教員選考委員会(岡田他)
8日	第1回 運営委員会	19日	平成16年度後期全学共通教育 授業改善アンケート優秀授業表彰式
8日	第1回 第1部門会議	20日	e-Learning World 2005
14日	教員選考委員会(岡田他)	～22日	東京ビックサイト(後藤、江本)
25日	拡張 Web シラバス 仕様策定委員会(後藤、江本他)	26日	第1部門兼務教員会議
26日	第2回 運営委員会	28日	第5回 運営委員会
5月9日	平成16年度前期優秀授業公開	29日	第2回 第3部門会議
～13日		8月1日	山形大学教養教育FD合宿セミナー
20日	第1回 第2部門会議	～2日	山形大学蔵王寮(江本)
24日	拡張 Web シラバス 仕様策定委員会(後藤、江本他)	5日	拡張 Web シラバス 仕様策定委員会(後藤、江本他)
26日	国立大学教養教育実施組織会議	9日	愛媛大学 教育・学生支援機構視察 (玉、江本)
～27日	名古屋大学(岡田、後藤他)	10日	全国大学教育研究センター等協議会
27日	名古屋大学 高等教育センター視察 (岡田、後藤他)	～11日	広島大学(玉、江本)
30日	第2回 第2部門会議	18日	北海道大学 高等教育機能開発 センター視察(後藤)
		26日	拡張 Web シラバス 仕様策定委員会(後藤、江本他)
		29日	第5回 第2部門会議

全学共通教育企画・実施部門（第1部門）

活動報告

全学共通教育改革

平成16年6月の全学共通教育企画・実施部門会議に素案を出した後、5回の部門会議と、8回の兼務教員会議（部門の兼務教員とセンタースタッフとの会議：兼務教員会議）、および各学部への説明会を経て、平成17年3月22日の運営委員会へ「全学共通教育の更なる発展へ向けて：改革骨子案（v.3）」（問題点と課題の整理および16の改革のポイントで構成）を上程しました。

同時に、2月中旬に行なった「全学共通教育の全教員担当体制に向けての事前アンケート」の2次募集を行い、これまでに158件の回答を得ています。つまり、残念ながらまだ約300名の教員が未回答ということです。（現在もアンケートへの回答は可能です。センターWebサイトの学内限定ページから辿ってください。）

改革案に関するその後の議論は運営委員会で行われていますが、センター第1部門では、各学部からの意見についてのセンターの見解をまとめ、また、上記学部説明会でお配りした改革の取組Q&Aのv.2を作りました。

その後、6月2日の運営委員会において、新分科会の案作りが承認されたのを受け、5回の兼務教員会議を経て7月26日に新分科会案を運営委員会へ提案しました。

目下この新分科会案についての教員の皆さまのご意見を募集中です。（センターセンターWebサイトの学内限定ページからフォームに入力）ぜひ、貴重なご意見をお寄せください。（後藤尚人）

大学教育センター Web サイト構築

平成16年度に「NHK 大学セミナー」ページだけしか作っていなかった大学教育センターのWebサイトを4月に本腰を入れて構築し、オープンにこぎつけました。（時間がかかったのはロゴマークの作成だったりします...）

センターの活動について、可能な限り情報発信をしています。学内限定ページからは、アンケートの他、上記改革関連文書など、各種資料がダウンロードできます。

<http://uec.iwate-u.ac.jp/>

ぜひ一度、覗いて見てください。（後藤尚人）

放送大学活用研究プロジェクト

erudio 2 でもお知らせしたとおり、本年度、岩手大学と放送大学は、共同で《放送大学活用研究プロジェクト》を実施しています。

放送大学を利用するにあたり、どのような科目をどのような形態（科目履修生としてやコンテンツ利用としてなど）で活用し得るものなのか、といった観点から、前期には以下の4科目

- * 韓国語（科目履修生：担当教員不足の解消）
 - * 心理学初歩（コンテンツ利用：巨大クラスへの応用）
 - * 現代社会と著作権（科目履修生：カリキュラムの充実）
 - * 分子生物学（コンテンツ利用：教育効果の検証）
- を実践しました。（後藤尚人）

高大連携 ～ 高校生のための体験入学

高校生に「高度な教育・研究に触れる機会を提供する」等の趣旨の基、昨年度後期の試行を受け、本年度から正式に体験入学を募集いたしました。共通教育科目3分科会の7科目に対し、盛岡近郊の3つの高等学校から5科目12名の申し込みがありました。毎時間大学生と一緒に講義を受け最後の期末試験も受験しました。講義、試験が終了した8月初旬に、12名全員に修了証書（成績報告書付）が交付されました。（石川明彦）

その他

5月26～27日に名古屋大学で行われた国立大学教養教育実施組織会議において、「全学共通教育の全教員担当体制への移行について」というタイトルで、本学の改革案とその検討状況について、報告してきました。報告の趣旨は、本学の改革の現状を他大学の方々に知っていただくと同時に、他大学の改革の状況をお伺いして本学の改革に役立てようというものです。

ほとんどの大学が既に全教員担当体制を実施していることが分かり、「お尻に火がついた」気がしました...（後藤尚人）

活動予定

全学共通教育改革

7月26日の運営委員会において、改革案全体の18年度導入は見送るとの結論に至りましたので、検討時間にいくらか余裕ができました。とはいえ、18年度から新学習指導要領で学んだ高校生が入学してくることから、改革が待ったなしの状況であることには変わりはありません。

秋頃には新分科会を確定して、教員の登録体制を実施したいものです。また、中期計画にも明記されている転換教育の18年度の全学実施に向けた取組も必要になってくるでしょう。

いずれにしても、平成19年度から全面的な改革を実施するには、本年中、遅くとも本年度中に全学的合意が必要だと思われます。(後藤尚人)

放送大学活用研究プロジェクト

後期には以下の3科目

- * 住計画論 (科目履修生：担当者不足の解消)
- * 細胞生物学 (科目履修生：教育効果の検証)
- * アグリビジネス (科目履修生：担当者不足の解消)

を実施します。

前期同様、学期末にはアンケートを実施して、いろんなデータを収集し、報告書をまとめねばなりません。ふう～。(後藤尚人)

専任教員の着任

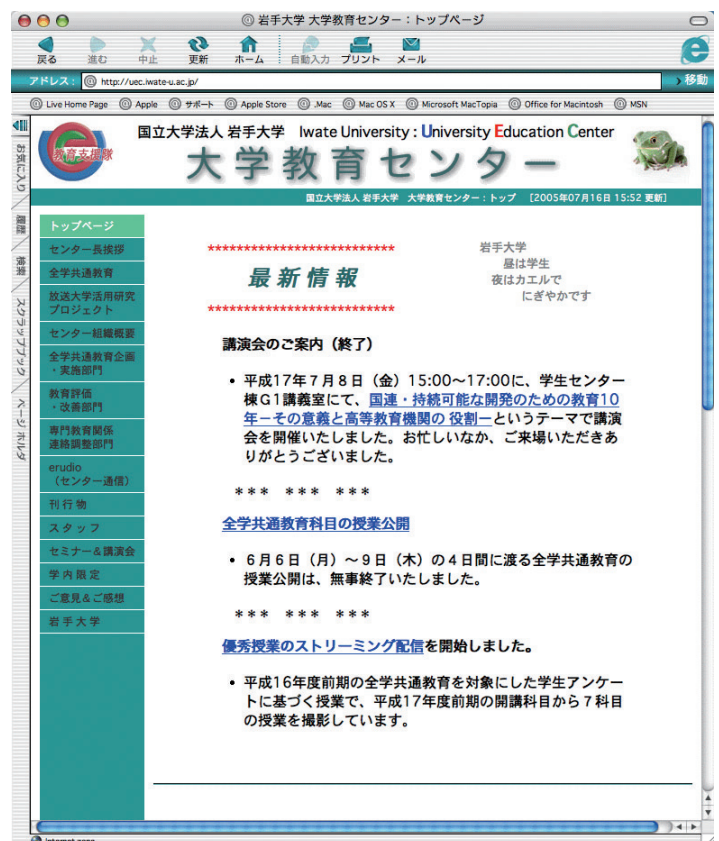
10月からは第1部門にも待望の専任教員が着任します。教育問題についてのプロが今後はこの部門を担当しますので、これまで兼任教員の非力ゆえに生じていたほころびを修繕し、新たな観点を導入して、改革を実現して頂けると期待しています。

10月からはまた、「全学統一拡張 Web シラバス」関連のプロジェクト担当教員も着任し、大学教育センターの専任3名体制が確立します。

いよいよ本格活動の開始ですね。(後藤尚人)

高大連携 ～ ウインターセッション

高校生に研究の面白さや研究者の姿に触れる機会を提供する等の目的で、本年度も12月25日、26日、27日の3日間、盛岡大学、富士大学、岩手県立大学と並行して計画されています。本学で開催する今年度のメインテーマや詳細プログラムは工学部と農学部を中心に検討されています。(石川明彦)



大学教育センターWebページ

<http://uec.iwate-u.ac.jp/>

教育評価・改善部門（第2部門）

全学共通教育・授業アンケート関連報告

平成16年度前期優秀授業公開

平成17年5月9日(月)から13日(金)にかけて、「平成16年度前期全学共通教育授業改善アンケート調査」の中から、各分科会の「優秀授業」を代表して各1名の先生による公開授業を実施しました。これらの授業は、インターネット上でストリーミング配信しており、授業を検討するための題材として活用しています。公開授業をご担当いただいた先生の名前、授業名は以下のとおりです。

(中村一基)

- * 小林 睦「倫理学の世界」(人間と文化)
- * 内田 浩「憲法」(人間と社会)
- * 吉澤 正人「物質の世界」(人間と自然)
- * アーダー, エルビス「英語B」(外国語)
- * 加藤 祐子「フランス語」(外国語)
- * 平山 貴司「情報基礎」(情報科目)
- * 小笠原 義文「バレーボール」(健康・スポーツ科目)

ストリーミング配信はこちらから：

http://uec.iwate-u.ac.jp/sec2/doc/open_2005_05.shtml

平成17年度前期授業アンケートの実施

前年度に引き続き授業改善のためのアンケート調査を7月、8月をお願い致しました。今回も多数の学生並びに多くの教員のご協力を頂き、100%に近い実施率でした。今回質問項目も精査し多少変更致しました(15ページの資料参照)が、大きく変わったのが記入方式です。「マーク読み取り機」の導入に伴い、アンケートの記入をマーク方式に変更致しました。これにより、外注せずに、大学教育センター内で集計作業を進めております。授業改善の参考にして戴けるよう早めに集計を終え皆様へ報告したいと思っております。(石川明彦)

平成16年度後期授業改善アンケート調査

集計&優秀授業表彰

全学共通教育授業改善アンケート調査を平成17年2月に実施致しました。前期に引き続き大学教育センターで集計作業を進め、6月に授業科目別集計票を担当教員個々に送付報告致しました。

また、優秀授業選定につきましては、前期に習い大学教育センター教育評価・改善部門会議で評価選定作業を行いました。選定作業の結果、前期の選出基準を踏襲し、次ページの授業科目が優秀授業として選出され、平成17年7月19日(火)に表彰式が行われました。(石川明彦)



平成 16 年度後期授業改善アンケートによる

全学共通教育・優秀授業科目一覧

【人間と文化分科会】(22 科目)

倫理学の世界	小林 睦
適応の理解	佐藤 正恵
欧米の文学	長野 俊一

【人間と社会分科会】(17 科目)

憲法	内田 浩
社会的人間論	塚本 善弘

【人間と自然分科会】(17 科目)

自然と数理	飯田 雅人
生命のしくみ	牧 陽之助

【総合科目分科会】(4 科目)

現代職業選択論	田口 典男
---------	-------

【環境教育科目分科会】(8 科目)

農業・生命と環境	青井 俊樹
----------	-------

【外国語科目分科会】(英語 65 科目)

英語 B	Ahdar, Elvis	水	5・6
英語 B	Blair, Benjamin Reed	水	5・6
英語 B	Ishikawa, Peggy Marri	水	5・6
英語 A	Hall, James	水	1・2
英語 B	Ahdar, Elvis	水	1・2
英語 B	Blair, Benjamin Reed	水	1・2
英語 B	Ishikawa, Peggy Marri	水	1・2
英語 B	Hopson, Nathan	火	5・6
英語 B	Short, Kevin Anthony	火	3・4

【外国語科目分科会】(英語以外 46 科目)

初級フランス語 (発展)	加藤 隆	水	5・6
中級ロシア語	長野 俊一	水	5・6
初級中国語 (発展)	吉野 寧恵	水	5・6
中級韓国語	楊 政亜	水	5・6

【健康・スポーツ科目分科会】(36 科目)

バドミントン	吉田 実	水	5・6
サッカー	佐々木 博之	水	5・6

【情報科目分科会】(3 科目)

情報基礎	今井 潤
------	------

* 分科会名の横の () 内の数字は、アンケート実施科目数です。

平成 16 年度 前期・後期 授業改善アンケート実施率

平成 16 年度 前期 授業改善アンケート実施率

分科会	対象		参加		不参加		実施率 (%)		回答者数
	科目数	教員数	科目数	教員数	科目数	教員数	科目	教員	
人間と文化	22	22	21	21	1	1	95	95	1881
人間と社会	27	26	23	23	4	3	85	85	1806
人間と自然	17	16	15	14	2	2	88	88	1089
外国語科目	166	69	75	57	91	12	45	83	2389
英語	68	32	37	27	31	5	54	84	1367
英語以外	98	37	38	30	60	7	39	81	1022
健康・スポーツ科目	39	20	39	20	0	0	100	100	1125
情報教育科目	17	14	11	8	6	6	65	57	617
合計	288	167	184	143	104	24	64	86	8907

注：配布ミスに該当する分は、参加には含めていますが、回答者数には含めていません。

平成 16 年度 後期 授業改善アンケート実施率

分科会	対象		参加		不参加		実施率 (%)		回答者数
	科目数	教員数	科目数	教員数	科目数	教員数	科目	教員	
人間と文化	23	23	22	22	1	1	96	96	1541
人間と社会	18	18	17	17	1	1	94	94	1459
人間と自然	18	18	17	17	1	1	94	94	927
外国語科目	137	64	108	59	29	6	79	92	3632
英語	66	32	64	32	2	2	97	100	2313
英語以外	71	32	44	27	27	4	62	84	1319
総合科目	5	—	4	—	1	—	80	—	536
環境教育科目	8	—	8	—	0	—	100	—	1073
健康・スポーツ科目	36	16	36	16	0	0	100	100	1031
情報教育科目	5	5	3	3	2	2	60	60	146
合計	250	144	215	134	35	11	86	93	10345

注：総合科目、環境科目のオムニバス形式の授業科目は、教員数を割愛しました。

きみたちの声を授業に反映させませんか！？

―― 全学共通教育授業アンケート ――

岩手大学大学教育センター

この調査は、みなさんにこの授業の学習を振り返っていただき、学習状況や授業について回答してもらうことを通して、授業やカリキュラム等の改善に生かすために行っています。ご協力をお願いします。
なお、このアンケートの回答があなたに対する成績評価に反映されることは全くありませんので、率直な回答をお願い致します。

該当する項目のマーク（○、△など）を、鉛筆で黒く塗りつぶして（●）ください。

A (1) この授業科目のコード番号を記入して下さい。 (黒板参照)

(2) 所属学部・入学年度について、該当するマークを塗りつぶしてして下さい。

- | | |
|-----------|--------------|
| ① 人文社会科学部 | (A) 平成17年度入学 |
| ② 教育学部 | (B) 平成16年度入学 |
| ③ 工学部 | (C) 平成15年度入学 |
| ④ 農学部 | (D) それ以前 |

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

- | | |
|------------------|----------------------|
| ① 必修科目だから | (F) シラバスを読んで興味を持ったから |
| ② 単位がとれやすそうだったから | (G) 友達を選択するから |
| ③ 自分の専門と違う分野だから | (H) 自分の専門に関係が深そうだから |
| ④ 先輩などからすすめられたから | (I) 他の授業で人数制限を受けたから |
| ⑤ 他にどれい科目がなかったから | (J) その他(具体的に:) |

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

- | | | | | | |
|--|----------|-------------|---------------|------------|-----------|
| a. あなたがこの授業を休んだ回数 | ① 0回 | ② 1回 | ③ 2回 | ④ 3回以上 | |
| b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか | ① 読んだ | ② 読まなかった | | | |
| c. シラバスを読んで、書いてあることについて理解できましたか？ | ① 理解できた | ② だいたい理解できた | ③ あまり理解できなかった | ④ 理解できなかった | |
| d. 平均して1回の授業に対してどのぐらい予習・復習をしましたか？ | ① 1時間以下 | ② 1～2時間 | ③ 2～3時間 | ④ 3～4時間 | ⑤ 4時間以上 |
| e. レスポンスカードに疑問点や質問、感想などを積極的に書き込みましたか？ | ① 書き込んだ | ② そこそこ書き込んだ | ③ あまり書かなかった | ④ 書かなかった | ⑤ 機会がなかった |
| f. あなたがレスポンスカードに書いたことに対して、教員より何らかの反応はありましたか？ | ① ほとんどない | ② ときどきあった | ③ ほぼ毎回あった | ④ 機会がなかった | |
| g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組んだと思いますか？ | ① そう思う | ② すこしそう思う | ③ あまりそう思わない | ④ そう思わない | ⑤ 機会がなかった |
| h. あなたが提出した提出物に対して、教員より何らかの反応はありましたか？ | ① ほとんどない | ② ときどきあった | ③ ほぼ毎回あった | ④ 機会がなかった | |
| i. この授業におけるあなたの学習状況は、満足できるものだと思いますか？ | ① そう思う | ② すこしそう思う | ③ あまりそう思わない | ④ そう思わない | |

裏面に続く

資料：全学共通教育・授業アンケート用紙（共通） 他に外国語科目、健康・スポーツ科目用があります。

(平成17年度 前期 共通)

- | |
|--------------|
| ① そう思う |
| ② すこしそう思う |
| ③ あまりそう思わない |
| ④ まったくそう思わない |

D この授業に関し、下記の事項の回答として、右の4段階の中から最も近いものを1つ選んで、番号をマークしてください。

番号(1～4)を必ずマーク(●)してください。

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| a. 教員は、授業の目標についてわかりやすく説明したと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| b. 授業の内容は、授業の目標達成に役に立つものだったと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかりやすく説明したと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| d. 教員が授業中に行った説明や指示はわかりやすいものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| e. 板書、ビデオ、プロジェクター等は、見やすかったですか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| f. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| g. 教員は、今後の授業内容や進み方について、わかりやすく説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| h. 教員は、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| i. 教員は、毎回の授業中で、その回で学ぶべきポイントを示していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| j. 教員から、学生が授業に参加するための働きかけ(発言を促すなど)がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| k. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていたと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| l. 教員は、レスポンスカードや小テスト等を行った結果を授業に活かしていたと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| m. 授業開始時間・終了時間とも守られていたと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| n. 授業はよく準備されていたと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| p. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫して、問題を解決する機会はありませんか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| q. 授業中及び授業時間以外以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| r. 授業中及び授業時間以外以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会があったと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| s. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| t. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| u. 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |

E この授業に関し、疑問に思ったこと、印象に残ったこと、改善した方がよいこと、学習を振り返って感じたことなど、今感じていることを自由に記述してください。

ご協力ありがとうございます

その他の活動報告 & 活動予定

第1回全学共通教育科目授業公開

6月6日(月)から9日(木)までの4日間、全学共通教育担当教員の協力を得て、全学共通教育科目の全ての科目の授業公開を実施しました。これは、全学共通教育科目の授業を本学学生の保護者及び一般市民に参観していただく試みです。この授業公開を通して、保護者、市民の方々に、大学の授業に対する理解をいただくとともに、貴重な意見をいただいて、全学共通教育科目の授業改善を進めていくことを目的としています。

なお、今回の全学共通教育科目の授業公開に関して、以下のような新聞報道がありました。(中村一基)

よりよい授業へ一般公開 岩手大

盛岡市の岩手大学第一の講義が行われた。参観者はアンケート用紙に「専門知識を教えればよい時代ではない。学ぶ意欲がわくようなコミュニケーションの工夫が大事。教員はプロ意識を持ってほしい」と話す。

同大の公開授業は9日までの期間中、午前八時四十分から午後六時まで六十

一般市民に公開された岩手の授業

授業の評価や意見、感想を記入した。滝沢村の主婦中村ひとみさん(48)は

「専門知識を教えればよい時代ではない。学ぶ意欲がわくようなコミュニケーションの工夫が大事。教員はプロ意識を持ってほしい」と話す。

同大の公開授業は9日までの期間中、午前八時四十分から午後六時まで六十

岩手日報 2005年6月7日

200講座を一般公開 岩手大学 保護者も訪れ聴講

岩手大学(平山健一学長)は6日から9日までの4日間、大学の全学共通教育科目を一般、学内教職員、学生の保護者などに公開する「オープンクラス」を実施している。同大は、2001年から農学部が独自に保護者対象の授業参観を実施しているが、全学共通教育科目の公開は初めて。授業を学生以外に公開することで、教員の緊張感を高め、授業の質の向上を図ろうと、初めて全学で取り組んだ。

公開する授業は、4日間で約200講座。人文社会、自然科学、語学など全分野、1校時目から10校時目まで

岩手大学で初めて行われた全学共通教育科目の授業公開

聴講者からは、アンケートを回収し、授業改善に役立てるといふ。公開初日の6日は、市民を中心に学生の保護者も訪れ、大学の授業を聴講した。

岩手大学で初めて行われた全学共通教育科目の授業公開

聴講者からは、アンケートを回収し、授業改善に役立てるといふ。公開初日の6日は、市民を中心に学生の保護者も訪れ、大学の授業を聴講した。

岩手大学で初めて行われた全学共通教育科目の授業公開

聴講者からは、アンケートを回収し、授業改善に役立てるといふ。公開初日の6日は、市民を中心に学生の保護者も訪れ、大学の授業を聴講した。

岩手大学で初めて行われた全学共通教育科目の授業公開

聴講者からは、アンケートを回収し、授業改善に役立てるといふ。公開初日の6日は、市民を中心に学生の保護者も訪れ、大学の授業を聴講した。

盛岡タイムス 2005年6月7日

FD合宿研修会

9月1日・2日の二日間、独立行政法人国立青年の家国立岩手山青年の家において、平成17年度の岩手大学FD合宿研修会を行いました。今回は、「高等教育機関としての岩手大学を考える」というテーマで、5つのプログラムを用意しました。詳細については、次号(erudio 4)でご報告させていただきます。(中村一基)

第2回全学共通教育科目授業公開

11月上旬に、第2回目の全学共通教育科目の授業公開を計画しています。2回目は、前回の反省点を踏まえて、全学共通教育担当教員のみなさんの協力に応えられる体制で臨みたいと考えております。

(中村一基)

専門教育関係連絡調整部門（第3部門）

活動報告 & 活動予定

新しいミッション

専門教育等連絡調整部門は、かつての専門教育連絡調整委員会を引き継いでいます。この委員会は、主に学部間の専門教育科目や、全学共通教育と各学部専門教育との間で問題が生じたときに連絡調整をする役割を担ってきました。その意味で、特に問題がなければ、開かれないものでした。

しかし、それは全学委員会の時代の話です。大学教育センターの部門となった以上、大学教育の改革方向を見据えて主導的、能動的に各学部の専門教育を連絡調整していく役割を担う必要があります。

これまで各学部の専門教育は、他とのバッティングが無い限り、まったく学部の専権事項でした。しかし、この専門教育に対する各学部の専権事項扱いが岩手大学の教育改革の弊害となっている側面も正しく認識する必要があります。

1つは、各学部間での相互無関心、相互不干渉という不文律の問題です。同じ岩手大学に所属しながら、他学部の教育、他学部の学生に無関心で、結局、自分の学部しか知らないという傾向です。実を言うと、非公式の間では、他学部の教育や学生の問題を指摘する人は少なくありません。ただし、実態を十分に理解しないまま、憶測で述べていくことも多くあります。

同じ大学の一員なのですから、たとえ専門教育であっても、もっと率直に言い合えば良いのではないのでしょうか。それを通じて、互いに良いところを学び、悪いところを反省す

るような関係が作られたら良いと思います。実際、2回の部門会議を通じてわかったことですが、学部間では互いに知られていないことがいっぱいありました。

例えば、専門での英語教育や大学院への進学促進、インターンシップなど、工学部には他学部が参考にしたらい先進的取り組みがあります。それを工学部だけの実践にしておくことは、もったいない限りです。他学部はもっと参考にすべきです。そのためにも、専門教育には口出ししないという慣行を改めるべきだと思います。学部の違いを尊重しつつ、意見を言い合い、良い点を参考にし、悪い点を直していくのが、本来の姿勢だと思います。

大学教育センターから全教員担当制を提案しましたが、その反応を見ると、とにかく自分の専門教育にしか関心がないという教員が多いように思われます。もう少し大学教育全般に関心を持っていただく必要があるのではないのでしょうか。

専門教育等連絡調整部門は、6月、7月と2回の部門会議を行い、今後も月1回のペースで部門会議を開催していく予定です。これまで議論したのは、単位制度、セメスター制、非常勤講師問題などです。9月には、転換教育などの初年次教育や補習教育について、検討をする予定です。

意見の一致が見られたことについては、積極的に大学教育センター運営委員会に提案していきたいと考えています。（玉真之介）

全学統一拡張 Web シラバスの構築

大学教育センターでは、平成 17 年度より 3 年計画の「大学教育センターにおける組織的授業改善と教室外学習支援システムの構築」プロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトにおける「教室外学習支援システム」として、現在、「全学統一拡張 Web シラバス」システムを構築しています。これは、現行の Web シラバスを改善し、履修前の一時期だけではなく授業期間を通して活用できるよう、機能的、システムの拡張させたものです。特に、Web というプラットフォームの利点を活かし、教員と学生の間にも双方向性を持たせ、授業の進行に応じた授業提供を行えることを目指しました。

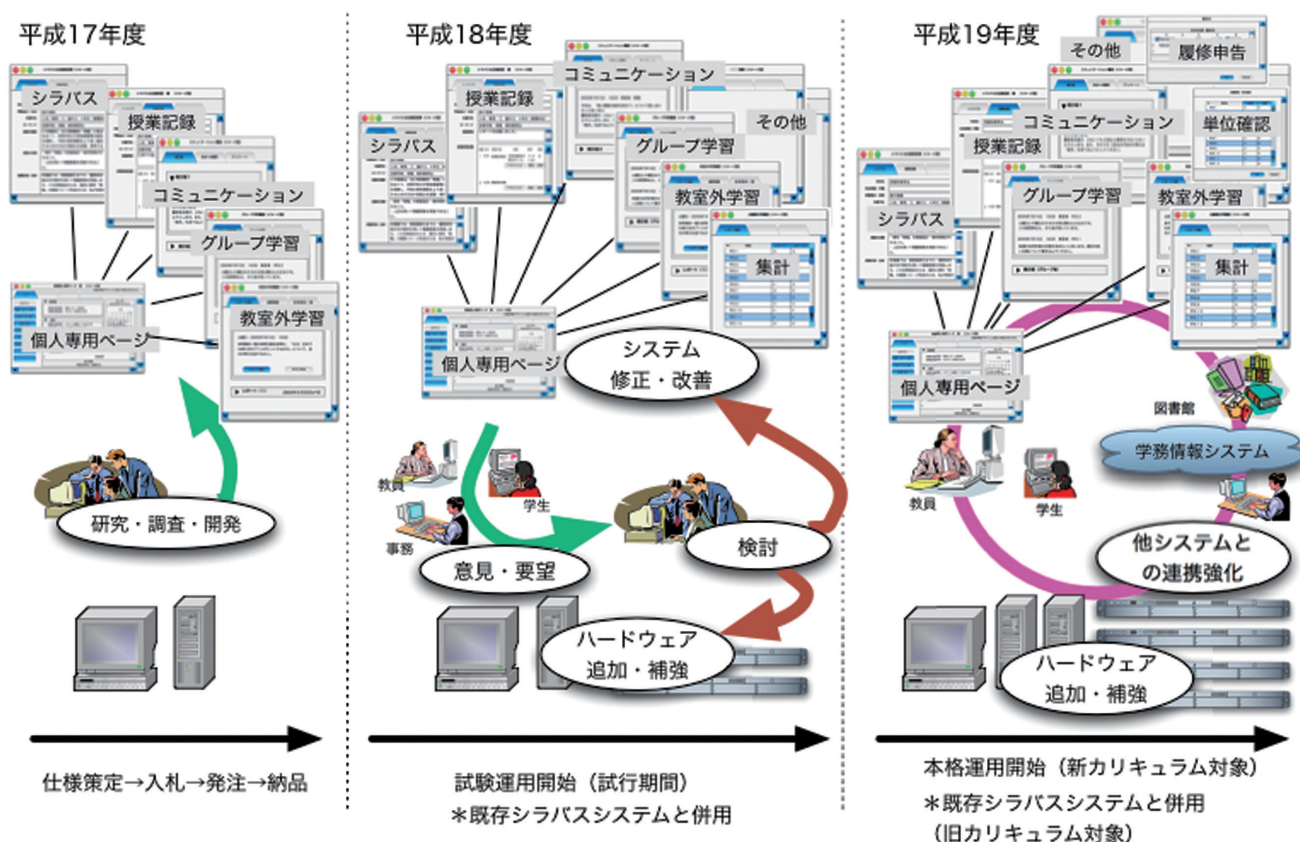
このシステムでは、授業の基本機能として「シラバス」と「授業記録」を用意します。「シラバス」が授業開始前に授業全体の計画を学生に提

示するものとすれば、「授業記録」は実際に行われた授業について、講義の内容や学生に出した学習上の指示の内容等を記録し、授業の進行状況を示すものとなります。

そして、授業を拡張する機能として、教室外学習を支援する課題出題・回収の機能や、教員と学生のコミュニケーションを支援する掲示板機能等を用意しました。さらに、全学統一の基盤上にのせたシラバスであることから、学務システム等の学内の他システムとの連携を図り、教員の事務的作業負担を減らすことを目指します。

平成 18 年度から試験運用、平成 19 年度より本格稼働させる予定です。ただいま、平成 18 年度の試験運用にご協力いただける先生方を募集中です。(江本理恵)

全学統一拡張 Web シラバス 開発スケジュール案



編集後記

大学教育センターでは、平成 17 年 10 月 1 日より、新しく二人の専任教員を迎えることになりました。これまで、通常の授業等の業務を行いながら、さらにセンターの業務にも取り組んでいただく、という併任の先生方の多大なる努力によって運営されてきた大学教育センターですが、これからは専任教員 3 名が中心となって運営していかなければなりません。全員が岩手大学外から赴任したばかりということで、慣れるまでには多少時間がかかるかもしれませんが、「愛される大学教育センター」を目指して、力を合わせて活動していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。(江本理恵)



全学共通教育企画・実施部門
専任教員
山崎 憲治

山崎憲治です。高校での教員経験を活かし、諸先生方の経験に学びながら仕事を進めて行きたいと思っています。新しい職場に、大いなる可能性を求めるとともに少々戸惑いも持っております。可能性を具体化すべく努力したいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。



教育評価・改善部門
専任教員
福永 良浩

この度、大学教育センターに着任します福永と申します。私は関西大学大学院工学研究科を修了後、NTT 西日本で主にシステムの設計や開発に関する業務に従事し、中村学園大学で e-Learning に関する研究を行ってきました。今後、皆様方にいろいろと御世話になりますが、よろしくお願いいたします。

erudio 3 2005 年 9 月 30 日発行



国立大学法人岩手大学
大学教育センター
Iwate University : University Education Center

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-34

全学共通教育企画・実施部門

TEL : 019-621-6925

教育評価・改善部門

TEL : 019-621-6924

専門教育関係連絡調整部門

TEL : 019-621-6925

FAX : 019-621-6928 (部門共通)